

大学の世界展開力強化事業(平成29年度選定) 千葉大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度29年度・(タイプA(ロシア))

極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成プログラム

【事業の概要】

本事業は、極東ロシアにおいて食料生産から流通・販売ビジネスまで含めた未来農業(高度施設園芸、植物工場)を理解でき、日露の共同事業に貢献できる人材育成を目的とし、大きく2つの領域でプログラムを実行する。第一は、未来農業の中心である「太陽光利用型植物工場」と「人工光型植物工場」における環境制御、栽培技術・管理、デバイス開発に関するプログラムであり、第二は「太陽光利用型植物工場」と「人工光型植物工場」の生産物管理、マーケティング、ライフサイクルアセスメント等に関するプログラムである。栽培や環境に関わる領域だけではなく、工学やマーケティングに関するプログラムを学び、極東地域における日露共同事業の柱の一つとされている、温室ビジネスで活躍できる人材を育成する。

Future Agriculture with Russian Far East Pre-Master to PhD Program



▶プロが「未来農業ビジネスプロフェッショナル」を育成するプログラム



【交流プログラムの概要】

プレ修士(学部2~4年生)、修士課程、博士課程を通じて、双方向の交流を行う。交流プログラムは、人工光型植物工場を中心とした6週間のA-Trainingと、太陽光利用型植物工場を中心とした12週間のS-Trainingの2つの系統で実施される。いずれも、未来農業に関わる知識(植物生理、栽培管理、環境調節、デバイス開発、施設運営、マネジメント、マーケティング等)の講義、演習に加えて、企業と連携して技術を修得するインターンシップ等で構成される。

【本事業で養成する人材像】

極東ロシアにおいて食料生産から流通・販売ビジネスまで含めた未来農業を理解でき、日露の共同事業に貢献できる人材育成を目的とする。未来農業は、生産過程に加えて、流通・消費などを含めた「次世代6次産業」を体現するものであることから、園芸学、工学、経営学、マーケティング等複数の領域に長けたグローバル人材が求められている。加えて、日本-極東ロシアで連携した共同事業に貢献し、マネージできる人材の育成を目指す。

【本事業の特徴】

本プログラムは、以下の4つの特徴を持っている。

- 1、日本とロシアが共同し「極東の寒冷地」における未来農業のスペシャリストを育成するプログラム
- 2、未来農業ビジネスプロフェッショナルを育成するプログラム
- 3、人工光型と太陽光利用型の植物工場未来農業を学ぶプログラム
- 4、2~4回の留学を実施するサンドイッチプログラム

【交流予定人数】

	H29	H30	H31	H32	H33
学生の派遣	6	10	14	18	22
学生の受入	10	10	10	18	22

1. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【千葉大学】

【事業の名称】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



〈 日本ロシア極東農業ビジネスフォーラム 〉

平成29年度は、サマー(ウインター)プログラム等として沿海地方農業アカデミー、サハリン総合大学への学生派遣を3回、受入を2回短期で実施し、10名の派遣、10名の受入を行った。また、3月に千葉大学柏の葉キャンパスにおいて、日本ロシア極東農業ビジネスフォーラムを開催し、日露の大学関係者及び関係企業が参加して、ビジネス交流の拡大と本事業の宣伝広報を日露双方に対して行った。

平成30年度は、引き続き2大学とのサマープログラムを行うと共に、インターンシッププログラムを開始する予定である。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

29年度の交流プログラムは、サマー(ウインター)プログラムとして、派遣プログラムは、①沿海地方における薬用植物の栽培、採取、利用(沿海地方農業アカデミー)、②サハリンにおける自然・歴史(サハリン総合大学)を実施し、より短期的な交流プログラムとして、③沿海地方における温室農業見学、人工光を利用した植物生産に関する意見交換(沿海地方農業アカデミー)を実施した。

○ 外国人学生の受入

29年度の交流プログラムは、サマー(ウインター)プログラムを延長して、受入プログラムは、3週間(沿海地方農業アカデミー)と2週間(サハリン総合大学)で行った。共通する内容は、人工光型植物工場、太陽光利用型植物工場の現場見学、研修である。3週間のプログラムでは、(植物生理、栽培管理、環境調節、マーケティング等)の講義、演習の試行も行った。

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	6	10
学生の受入	10	10



〈 実習や企業見学の実施 〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本プログラムへの参加学生には、各大学において、事前学習、事後学習を行い、プログラムの成果が高まる様に指導している。受入プログラムは、初年度であったことから、各大学から3人以上の教員に参加してもらい、プログラム内容の確認と今後の進め方の相談を行った。本プログラムの科目は「植物環境デザインプログラム(P-SQUARE)」において開設した科目として実施しているが、ロシアの学生のためにより基礎的な内容とする方向で調整している。プログラムに参加した学生は報告会でのプレゼンを義務付けており、千葉大学より修了書を出し、成績を付けたうえで単位を授与している。ロシア2大学での修了証については、現在調整中である。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

受入期間中は、ロシア語の分かる職員と1名以上の教員が対応し、プログラムを実施している。これらの教員は、受入期間中は基本的にその運営に専念することとなる。プログラム期間中の修学においてはきめ細かい教育・指導体制となるように十分に情報を伝達し支援を行った。また、教育内容以外に関する支援、プログラムにおけるPCの利用や授業実習の準備などは、チューターとTA等が行った。ロシアからの学生受入、日本人学生派遣双方に利用できる、日英露対応の施設園芸専門用語集を作成した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

事業採択前の6月に沿海地方で開催されたロシア日本農業ビジネスフォーラムにおいて、本事業構想の紹介をロシア関係者50-60名に対して行った。また、3月に日本ロシア極東農業ビジネスフォーラムを千葉大学において開催し、日本ロシアから関係企業、大学関係者が100名以上の参加を得て、本プログラムの事業内容を紹介した。今後のロシア極東との農業ビジネスの可能性を探ると同時に、インターンシップ受入など連携の検討を依頼した。またHPの制作を行ったがURLの公開は30年度前半になる。

■ ゲッドプラクティス等

平成29年度は実施期間が半年の短期間にもかかわらず、沿海地方農業アカデミー、サハリン総合大学との間で受入では、インターンシッププログラムの試行を行う事が出来た。また、3月には両大学からの参加も得て、千葉大学において日本ロシア極東農業ビジネスフォーラムを開催し、100名以上の参加を得て、日露の関係企業に本プログラムの事業内容を紹介出来た。